

## 投資の基礎講座 「これからの株式投資へのヒント」

どんな株式が値上がりするのか、それがわかれば誰も苦労しないのですが、残念ながら将来のことは「神のみぞ知る」というのが現実です。しかし、銘柄選択のヒントはいろいろあるところにあります。

例えば、2007年5月には「三角合併」が外国企業にも解禁される予定です。「三角合併」とは株式交換を使った会社の買収方法のひとつです。株式交換とは、他の会社を吸収合併する場合に、現金を渡して買収したい会社の株式を買うのではなく、親会社となる会社の株式を渡して買収したい会社の株式を受け取る、その名の通り、株式を交換することで他の会社を吸収合併する方法です。これまでは国内企業同士に限られていた企業買収の方法でしたが、外国企業にも認められることになります。

外国企業に容易に合併されないよう、企業の時価総額を増やすために国内企業同士の合併・業務提携が活発になっていく可能性があります。既に銀行業界や鉄鋼業界は再編が進んでおり、鉄鋼株は大きく値上がりしました。これからは紙パルプや化学、電機業界で大きな再編が行われるかもしれません。企業業績はもちろん、1株あたりの純資産も重要な手がかりになりそうです。

## 先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,303.59円	16,473.36円	16,265.76円	16,417.82円
TOPIX	1,607.74	1,622.77	1,598.89	1,616.34
東証1部単純平均	445.10円	448.08円	442.52円	447.04円
東証1部売買高	1,678,210千株	2,394,140千株	1,565,910千株	2,394,140千株
ニューヨークダウ平均	12,283.85ドル	12,331.60ドル	12,278.41ドル	12,307.49ドル
NASDAQ	2,448.39	2,452.38	2,427.69	2,437.36
10年国債利回り	1.610%	1.690%	1.605%	1.690%
債券先物中心限月	135.33円	135.37円	134.16円	134.16円
無担保コールO/N	0.260%	0.260%	0.228%	0.249%
円TIBOR 1ヶ月	0.38727%	0.41545%	0.38727%	0.41545%
円TIBOR 3ヶ月	0.50455%	0.53091%	0.50455%	0.53091%
ドル/円相場	115.59円	115.59円	114.79円	115.37円
ユーロ/円相場	153.85円	153.85円	152.77円	153.16円
1ユーロ=ドル	1.3307ドル	1.3321ドル	1.3275ドル	1.3275ドル
米国FFレート	5.2500%	5.2500%	5.2500%	5.2500%
米国10年国債利回り	4.42%	4.55%	4.42%	4.55%

## スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年12月11日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%
東和銀行	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%
高崎信用金庫	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%
郵便局	0.15%	0.15%	0.17%	0.25%	0.30%

## 日銀短観

15日に日銀短観(平成18年12月)が公表されます。

業況判断DIは9月の時点で先行きの見通しについて大企業製造業・非製造業とも+21、中堅企業では+11と+4、中小企業は+7と-9となっていました。なお市場の予想では、大企業製造業は+25、非製造業は+20程度とみており、仮に業況判断が改善していれば、年内の利上げの可能性が高まりますし、市場予想を大きく下回ることになれば、利上げの可能性はかなり低くなると考えられます。

7-9月のGDP改定値、10月の機械受注が事前の予想を下回りましたが、10月の鉱工業生産が市場の予想を大きく上回るなど景気指標の動きに市場が一喜一憂しています。

果たして日銀短観でどのような数値が出るか注意してみたいと思います。

## 今週の株式相場見通し

先週の株式市場は、10月の鉱工業生産が市場予想を大きく上回ったことや外人投資家の買いが継続していることなどから上昇、日経平均株価が約1ヶ月ぶりに一時16500円台に乗せました。しかし、GDP改定値や機械受注が予想を下回ったことから上値は限られました。

今週の株式相場は、機械受注などが弱めのものとなったにも拘らず大きく値を崩さなかったことから下値は硬くなってきているものの、週末に日銀短観を控えており模様眺めの展開が予想されます。

企業収益は好調を維持しており、業績の上方修正の可能性が高まっており大きく値を崩すことはなさそうです。しかし、短観の結果によっては年内の利上げも否定できず、買いが手控えられ買いは低調になりそうです。

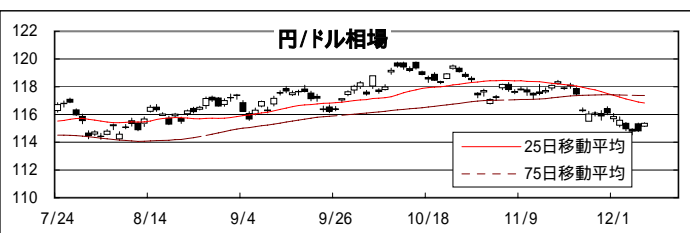
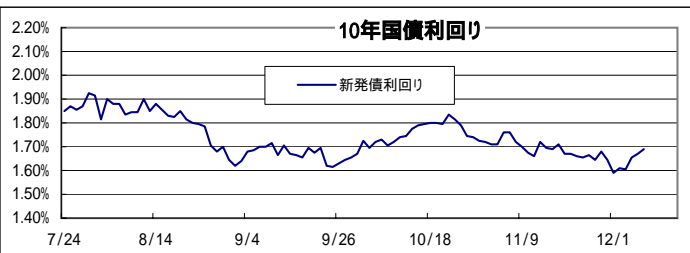
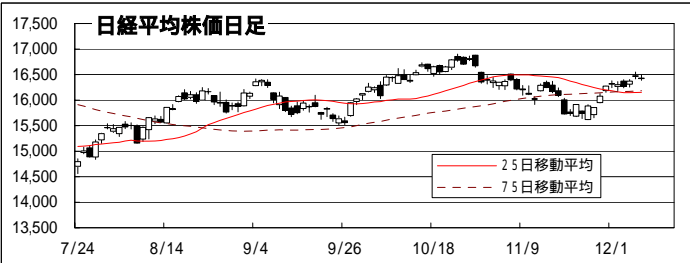
## 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、好調な鉱工業生産の発表を受け軟調な展開となり、週末に弱含みの経済指標の発表があったものの早期利上げ懸念から金利低下は限定的でした。

今週の債券相場は、日銀短観を週末に控え様子見の展開となりそうです。景気の減速を示す指数の発表もあり売り圧力は少ないものの、早期利上げの可能性も否定できず一進一退の値動きが予想されます。

先週の為替相場は、米国の景気指標に明るさが見えたことからドル売りに歯止めがかかきました。また、ECBが利上げを行ったことからユーロは堅調な値動きとなりました。

今週の為替相場は、12日のFOMC、15日の日銀短観と日米の金融政策に注目が集まり神経質な展開が続くものとも考えられます。ドル安に歯止めがかかったものの、大きく買い戻す動きは無く狭いレンジでの推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。